企画・制作／
読売新聞社広告局
広告

徳・健・財で社会に貢献できる人材を

清風中学校・高等学校 校長
平岡 宏一

（ひらおか こういち）1961年大阪市生まれ。早稲田大学第一文学部卒。高野山大学大学院博士課程単位取得（密教学専攻）。2年間インドに修学してチベット仏教を学んだ。清風中学校・高等学校で社会科教諭、副校長を経て、2011年から現職。チベット仏教に関する著書多数。

清風学園 スペシャル対談 Vol.1

清風中学校・高等学校（大阪市天王寺区）は、仏教を基盤とした人格教育を行う中高一貫の私立男子校です。平岡宏一校長と、教育経済学者の中室牧子さんが対談し、教育に経済学の視点を取り入れる必要性や人間力の大切さを語り合いました。その内容を3回に分けて紹介します。

教育にエビデンス（科学的根拠）を

慶應義塾大学 総合政策学部 准教授
中室 牧子

（なかむろ まきこ）1975年奈良県生まれ。1998年慶應義塾大学卒。米コロンビア大学で博士号を取得（Ph.D.）。日本銀行や世界銀行での実務経験を経て、2013年から現職。専門は教育を経済学的な手法で分析する「教育経済学」。著書に『「学力」の経済学』ほか。

教育を経済学の視点で分析する

中室　日本の経済状況が厳しくなる中、教育に経済学の視点を取り入れることの大切さが認識され始めています。国の借金を無駄に増やすことにならないよう、教育へのお金の使い方を効率化しなければいけません。様々な教育政策の中で、何に効果があって何に効果がないのか、エビデンス（科学的根拠）を基に検証する必要があります。また、今までの教育論は、どちらかというと極めて特殊な事例を取り上げていました。読んだり聞いたりする分には面白いのですが、実際に誰でもできるかというとそうではない。教育経済学でデータの裏側にあるメカニズムを明らかにし、教育に役立ててもらいたいと思います。

平岡　教育評論家の方からはエビデンスという言葉は出てこないので、中室先生の考え方には非常に感銘を受けました。教育を客観的に捉えて、結論ありきではなくエビデンスをもって様々な事実を明らかにしていますね。教育をしていく上での羅針盤ともいえる存在です。

中室　例えば、「子供を勉強させるためにご褒美で釣る」という方法について。経済学で分析すると、お金や賞品、名誉などの外的インセンティブ（動機付け）は子供を動かす一つの方法で、学力テストなどのゴールが単純なものに対しては効果を発揮するといえます。でも実はもっと大事なのは、心の内にある「内的インセンティブ」。これにはご褒美は有効でないということが行動経済学の数々の研究で示されています。〝社会に貢献したい〟〝学ぶことが楽しい〟という気持ちを引き出せるような教育が必要です。平岡先生は、まさにそのような教育を実践されていますね。

グローバル社会を生き抜くために

平岡　「自利利他」の精神ですね。本校は仏教に基づいた宗教教育を進めているので、自分を高めていくことで多くの人のお役に立とうというこの考え方は非常に重要です。建学の精神の徳・健・財、すなわち安心・尊敬・信頼を基に、与えられたことをきっちりとこなす日本人の正しい倫理観を持ちながら、社会に貢献できる人物を育てています。最近子供たちに伝えているのは、戦争の反対は平和ではなく、話し合いだということ。同じ目線で話し合い、相手が考えていることを想像して解決を図れる人材になってほしい。こうした力を育てることはグローバル教育にもつながります。

中室　グローバル人材育成というと、英語やＩＣＴ（情報通信技術）といったスキルを育てることに一生懸命になりがちですが、一番大切なのはグローバル社会で生き抜くための心の持ちよう（マインドセット）ですね。ＩＣＴの活用は必要なことだと思いますが、今のところＩＣＴの活躍がどのような効果をもたらすのかについて、国内のデータを用いた検証は多くありません。未来につながる教育をするためには、仮説の段階でお金を使ってしまうのではなく、きちんと検証した上で効果が確認されたら広げていくという方法を取り入れる必要があるでしょう。

学校法人 清風学園　〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町12-16　TEL 06-6771-5757